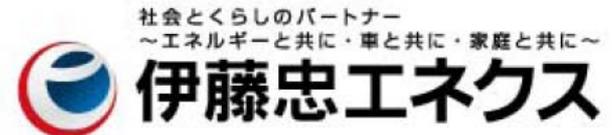




Providing Energy Blessings to All

Energy supports our everybody life and society.
To provide energy when and where its needed,
Is our major responsibility.

2010年3月期 決算説明資料



IR広報室 TEL : 03-6327-8003
(E-MAIL : enex_irpr@itcenex.com)

- (P3) 環境説明
- (P4) 連結損益計算書
- (P5) 連結貸借対照表
- (P6) 連結キャッシュフロー計算書
- (P7) 2009年度の総括:逆風下の躍進
- (P8) セグメント別情報
- (P9) 連結販売数量(主要6品目)
- (P10) 2010年度環境認識
- (P11) 2010年度の位置付け
- (P12) 2010年度の見通し
- (P17) 2010年度の重点方針
- (P21) 配当方針
- (P22) 低炭素社会への取組み

		2008年 3月末時点	2009年 3月末時点	2010年 3月末時点	前期 差異
DUBAI原油	&/bbl	98.10 (3/31時点)	46.70 (3/31時点)	78.70 (3/31時点)	+32.00
通関CIF原油	円/KL	62,675 (3月平均)	26,898 (3月平均)	43,316 (3月平均)	+16,418
CP(プロパン)	\$/トン	820 (3月分)	470 (3月分)	730 (3月分)	+260
WS(ワールドスケール)	—	198 (3月平均)	88 (3月平均)	126 (3月平均)	+38
為替(TTS)	円/\$	101.19 (3/31時点)	99.23 (3/31時点)	94.04 (3/31時点)	▲5.19
エネクス株価	円/株	567 (3/31時点)	518 (3/31時点)	493 (3/31時点)	▲25
エネクスPBR	—	0.67 (3/31時点)	0.68 (3/31時点)	0.61 (3/31時点)	▲0.07

連結損益計算書

(単位:億円)

2010年3月期 実績	2010年3月期 上期実績	前年 上期比	2010年3月期 下期実績	前年 下期比	2010年3月期 通期実績	前年 同期比
売上高	4,806	80%	6,031	107%	10,838	93%
営業利益	4	9%	57	100%	61	62%
経常利益	6	15%	64	108%	70	68%
当期純利益	8	32%	35	124%	44	80%

POINT

- 【 売上高 】 トレード事業部門の増加はあったが、売上単価の下落により減収
- 【 営業利益 】 景気低迷等に伴う市況環境の悪化が回復せず減益

連結貸借対照表

(単位:億円)

	2009年3月期末	2010年3月期末	増減額
流動資産	1,419	1,606	187
固定資産	1,057	1,025	△ 32
流動負債	1,169	1,402	233
固定負債	398	309	△ 89
純資産	909	921	12
総資産	2,476	2,631	155

POINT

【 総資産 】 売上債権・棚卸資産の増加、一方現金借入金の減少

【 純資産 】 利益剰余金増加、自己株取得、少数株主持分減少

連結キャッシュフロー計算書

(単位:億円)

	2009年3月期 累計期間実績	2010年3月期 累計期間実績	増減額
営業活動CF	293	50	△ 243
投資活動CF	△ 17	△ 36	△ 19
財務活動CF	△ 248	△ 170	79
<hr/>			
	2009年3月末	2010年3月末	増減額
現金同等物 期末残高	432	276	△ 156

POINT

【営業活動CF】 売上債権・棚卸資産・仕入債務の増加

【投資活動CF】 投資有価証券の売却、有形固定資産の取得

【財務活動CF】 有利子負債の削減、配当金の支払、自己株式の取得

2009年度の総括：逆風下の躍進

米国経済失速に伴う世界の石油製品需要の構造変化
国内石油製品の流通マージン圧縮、並びに需要減少
上期業績はトレード事業・産業用・自動車用が悪化

中計の三つの成長戦略の実行と足元の収益改善を下期に
徹底的に行うことで、次期の収益基盤の再構築を図った
- 逆風下の躍進 -

逆風下の躍進に基き実行した主な方策

1. 内外物流停滞への対処、及び自社物流の効率化・合理化

- | | | |
|---------------|-------------|----------------|
| ①コーナフリートの構造改善 | ②軽油新規ユーザー確保 | ③傭船事業のリスク船低減 |
| ④傭船機能の徹底活用 | ⑤国内配給船の効率活用 | ⑥他社提携LPG物流会社設立 |

2. マージン圧縮への対処

- | | | |
|--------------|----------------|---------------|
| ①取引先別コスト管理体制 | ②不採算SSの撤退 | ③与信リスク管理体制見直し |
| ④取引先信用保証制導入 | ⑤LPG原料費調整制導入拡大 | ⑥経費率ベンチマーク管理 |

3. 製品需要減少への対処

- | | | |
|---------------|--------------|---------------|
| ①FCソーラー事業全国展開 | ②電力卸事業参入 | ③EVつくば実証Prj参画 |
| ④LNG新規ユーザー確保 | ⑤車売買システムの再構築 | ⑥アドブルー事業黒字化 |

セグメント別情報

※ 新事業区分での比較

(単位:億円)

		2010年3月期 上期実績	前年 上期比	2010年3月期 下期実績	前年 下期比	2010年3月期 通期実績	前年 同期比
IM	売上高	418	53%	560	109%	977	75%
	営業利益	7	46%	9	52%	16	49%
CL	売上高	2,328	72%	2,727	98%	5,055	84%
	営業利益	5	19%	29	100%	34	63%
TR	売上高	1,702	125%	2,239	129%	3,941	127%
	営業利益	△4	-	0	2%	△3	-
HL	売上高	359	55%	505	86%	864	70%
	営業利益	7	148%	27	179%	34	171%
消去又は 全社	売上高	0	-	0	-	0	-
	営業利益	△12	-	△8	-	△20	-
全社【計】	売上高	4,806	80%	6,031	107%	10,838	93%
	営業利益	4	9%	57	100%	61	62%

連結販売数量（主要6品目）

（単位：千kl、千t）

	2010年3月期 累計期間実績	前年同期比
ガソリン	4,079	106%
灯油	2,126	118%
軽油	3,194	107%
重油	4,367	143%
燃料油【計】	13,766	118%
アスファルト	298	110%
LPガス	686	69%
【総計】	14,750	114%

POINT

- LPガスはJGEへの卸売事業移管により減少。
- 【2010年3月末時点】 CS数:2,153CS(前期末比▲21)、
LPG直売軒数:320千軒(前期末比+1千軒)

中計策定時からの変化

- 2008年4月の中計策定時点より、グローバル化・新エネシフト・内需減少は想定。
- 米国経済失速を起因とした①石油製品需要構造の変化、②国内元売各社の統合
③グリーンニューディール政策に伴う新エネシフトが想定を超えたスピードで変化。
- 三つの成長戦略の実行と新エネシフトへの対応で、新たな機能の拡充は計画通り。

2010年度環境認識

- 新価格体系見直しに伴い“流通構造の健全化”に向かうと想定。
 - ①末端市況へのコスト連動性強まる。
 - ②系列内再編により当社のビジネスチャンスは拡大
- 海外マーケットに向けてトレード部門はリスク対策が進み、端緒に着いた。

2010年度の位置付け

Core & Synergy2010最終年度、仕上げの年

基本方針

グループ力の結集によって、垂直・水平方向のグローバル展開を図り石油・LPG分野での収益基盤の再構築を図る。本中計の基本方針堅持。トレード事業並びにコーナンフリートの収益体制を確立、JGE効果の更なる追求により、稼ぐ力＝営業利益を必達。

- 石油流通分野におけるプレゼンス確保 -

<重点方針 i>

エリア戦略の展開

【新・経営管理体制】

企画開発本部・経営管理本部

<重点方針 iii>

戦略投資分野

<重点方針 ii>

エネルギー総合提案型
ビジネス構築

<重点方針 iv> 経営理念「社会とくらしのパートナー」の実践

新たなステージ創り

創立50周年を迎える本年度、50年間の検証を集約し、新たなステージで広義のエネルギー新規ビジネス創造に向かって前進する。

2010年度の見通し

(単位:億円)

	2010年3月期 通期実績	2011年3月期 通期見通し	前年 同期比	2011年3月期 中期経営計画
売上高	10,838	11,200	103%	18,000
営業利益	61	98	161%	155
経常利益	70	102	146%	159
当期純利益	44	38	87%	80

POINT

- ① 営業利益・経常利益は2009年度下期からの回復により、大幅増益を見込む。
- ② 当期純利益は一時的な資産除去債務計上の影響により、減益を見込む。

産業マテリアル事業

(単位: 億円、千kl、千t)

	2010年3月期 累計期間実績	2011年3月期 累計期間見通し	前年 同期比	2011年3月期 中期経営計画
売上高	977	1,030	105.4%	1,800
営業利益	16	20	122.8%	23
軽油	230	260	113.1%	
重油	995	990	99.5%	
アスファルト	296	300	101.2%	

具体的施策

- ① 重点エリア・重点油種の選択と集中による石油製品の増販
- ② 元売及び自社基地を基点とした石油製品物流機能の拡充と効率化
- ③ LNG事業の総合化に向けた供給・流通インフラ(内航船・導管)の機能強化、戦略投資
- ④ 省エネ提案、電熱供給等のワンストップの産業用エネルギーソリューション事業の深耕
- ⑤ 電力卸し事業並びに電力小売事業の立上げ

カーライフ事業

(単位:億円、千kl、千t)

	2010年3月期 累計期間実績	2011年3月期 累計期間見通し	前年 同期比	2011年3月期 中期経営計画
売上高	5,055	5,500	108.8%	9,250
営業利益	34	49	143.7%	79
ガソリン	2,598	2,804	107.9%	
灯油	718	737	102.6%	
軽油	2,004	2,007	100.1%	
重油	248	240	97.0%	

具体的施策

- ① 元売とのパートナーシップに基く系列内販路拡大、並びに独自販路の開拓による規模拡大
- ② エリア戦略に則ったグループ会社CS拠点再構築、及びコーナンフリートを始めとしたグループ会社経営体制の競争力強化。
- ③ イツモレンタカー・車販・板金等、系列CSのリテール事業の収益拡大に資するサポート機能の充実
- ④ エネクス版“次世代CS”モデルの実証

トレード事業

(単位: 億円、千kl、千t)

	2010年3月期 累計期間実績	2011年3月期 累計期間見通し	前年 同期比	2011年3月期 中期経営計画
売上高	3,941	3,730	94.6%	5,600
営業利益	△3	16	—	33
ガソリン	1,464	1,530	104.5%	
灯油	1,183	970	82.0%	
軽油	954	950	99.6%	
重油	3,115	3,620	116.2%	

具体的施策

- ① アジア地域を重点エリアとした伊藤忠商事並びに海外サプライヤーとの
 接続による販路拡大、取扱い量確保、収益拡大。
- ② 国内ターミナル事業の効率化、収益力アップ
- ③ タンカー運航事業の市況リスク低減策の実行並びに運航エリア分散による収益拡大

ホームライフ事業

(単位: 億円、千kl、千t)

	2010年3月期 累計期間実績	2011年3月期 累計期間見通し	前年 同期比	2011年3月期 中期経営計画
売上高	864	940	108.8%	1,350
営業利益	34	39	114.9%	46
LPガス	617	600	97.2%	

具体的施策

- ① JGEとの連携強化により、更なるエリア会社の競争力強化を図る
- ② リテール分野における重点エリアにおける選択と集中による、積極且つ効率的な投資
- ③ エリア物流体制の再整備による大幅なコスト圧縮による競争力確保
- ④ W発電を中心とした環境商材の取組強化、及びアスクラスリフォーム事業の領域拡張
- ⑤ ITを活用した業務の効率化によるコスト圧縮と、新たな収益への機会拡大

重点方針 i : エリア戦略の展開

- 1.石油元売再編・製油所統廃合⇒製油所コスト・流通合理化での競争力確保
2. 国内需要の減少⇒点から面展開による拠点・物流の合理化・効率化必須
3. “分散型電源”のトレンド⇒“地産地消型”のビジネス構築
4. エネルギー「供給」から生活者「選択」へ⇒マーケティングとブランド展開

<取組み骨子>

コア基盤の点から面への展開⇒エリアブランド力向上⇒新たなビジネス展開

- エネルギーを選択する主役である“生活者”に更に接近
- 当社のコア基盤である販売店の活力により地域社会へ密着
- 一律的マスマーケティングから、地域の強みを活かしたビジネス展開
- 地域に相応しい本部間の連携、実りある社会貢献

重点方針 ii : エネルギー総合提案型ビジネス構築

1. 低炭素社会の実現

2. エネルギーを生活者が選択する時代

<取組み骨子>

- 化石燃料の高度化利用
- 再生可能エネルギーの利用促進
- 電気エネルギーの取組み促進

<主な施策>

- ① F C ・ P V の大幅拡販による設計施工体制の内製化による収益確保
- ② 定置式リチウムイオン電池の産業用・民生用のビジネス構築
- ③ 電力小売市場への参入、及び省エネ商材による省エネ診断、需要管理
- ④ 大規模LNG導管事業への参入、及びオンサイト型LNG事業の推進
- ⑤ バイオマスエネ・DME・水素staの事業化への検討継続

重点方針 iii：戦略投資の実行

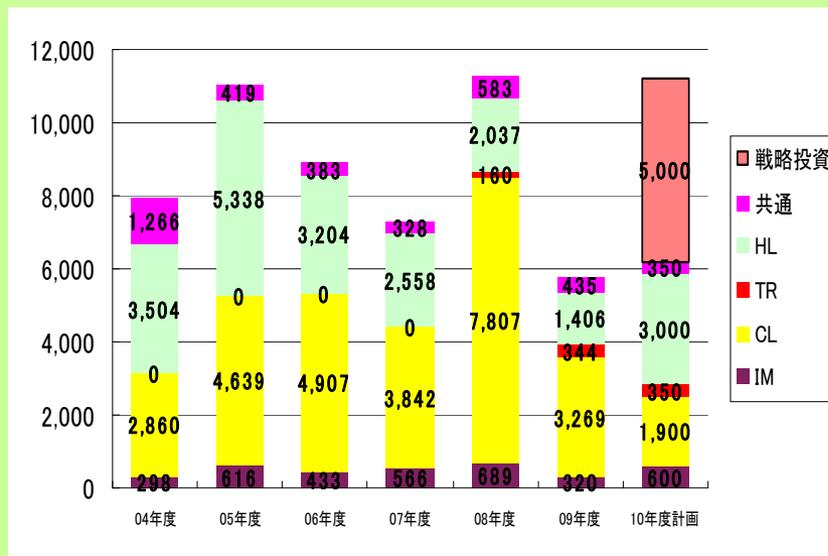
1. 中計の三つの成長戦略に伴う戦略投資は一巡
2. 既存事業への投資からコア事業との新たなシナジーがあがる分野への投資

<取組み骨子>

- エリア戦略に資する投資
- エネルギー総合提案型ビジネス構築に資する投資
- ITの武装化による業務合理化・効率化と生活者への接近への投資

<主な施策>

- ① 新・経営管理体制によるM&A支援
- ② 現存金庫株による資金確保
- ③ 社員ボトムアップ型提案体制構築

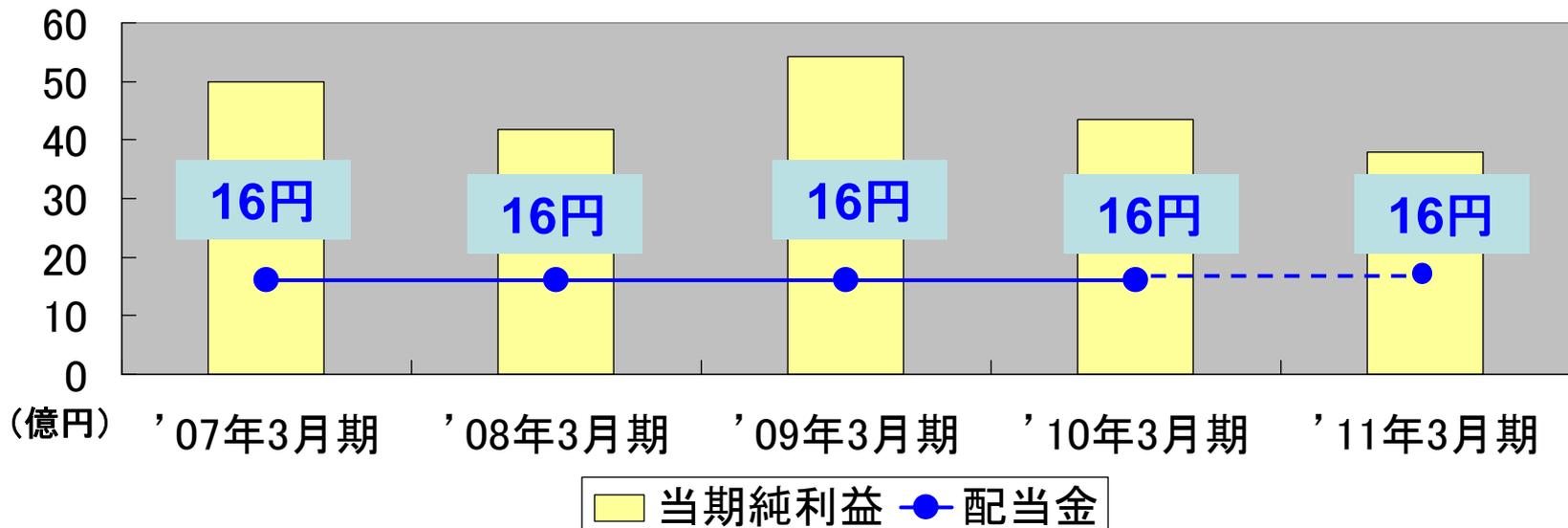


重点方針 iv：経営理念 「社会とくらしのパートナーの実践」

「社会インフラとしてのエネルギーから
人を育み、くらしと心を豊かにするエネルギーまで」を
グループ社員全てがその主役となって実践する。

そのために求める人材像は
「社会のパートナーとして、自ら、新たな発想で考え、
果敢に行動し、成し遂げる人」

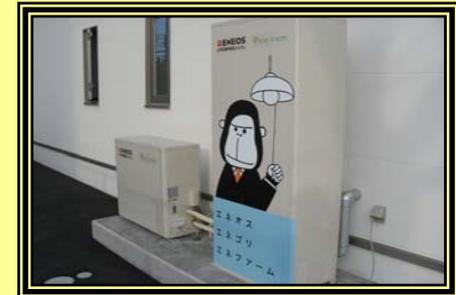
- 配当性向30%以上を目標。
- 通期の配当は業績を勘案しながら対応。



	'10年3月末	'11年3月末 予想
配当性向	42.70%	47.90%
EPS(1株当たり当期純利益)	37.46円	33.38円
BPS(1株当たり株主資本)	791.24円	807.51円

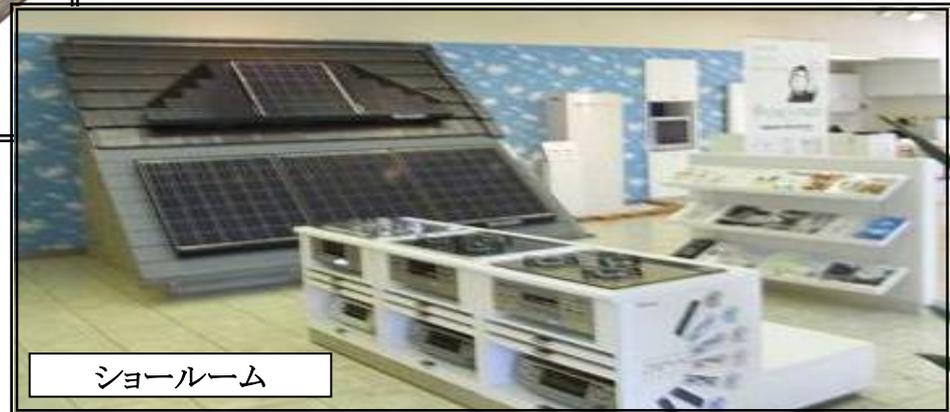
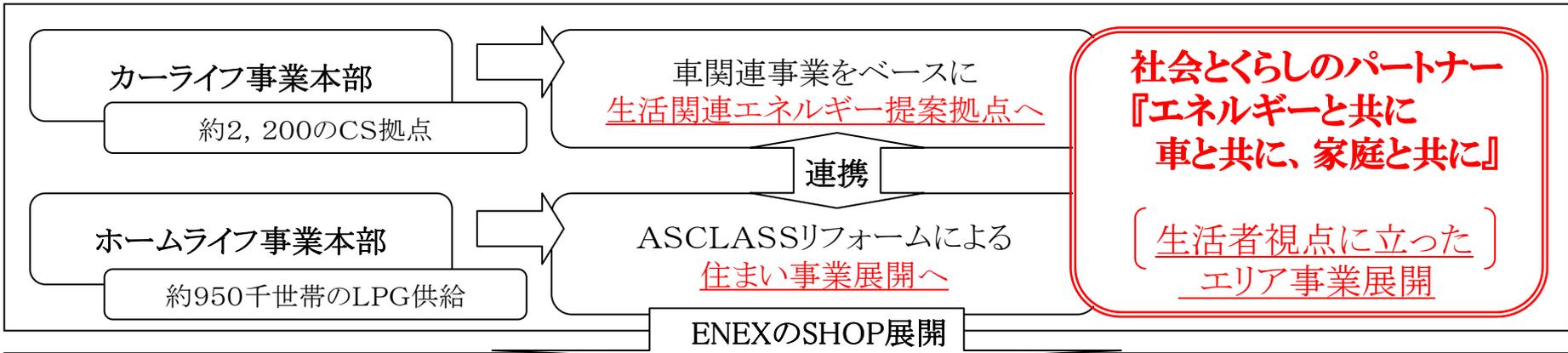
(FCソーラー販売実績)

		2009年度実績				2010年度
		目標	成約 (完工)	受注残	合計	目標
販売実績 (台数)	PV	350	274	87	361	1,000
	FC	150	150	0	150	200
	(KW)		1,083	311	1,394	4,000
売上高 (百万円)			940	211	1,151	2,100



※09年度受注残：商品納入遅れによる施工遅延

低炭素社会への取組み：ENEXの事業展開



低炭素社会への取組み：Ecoエネルギーシステム



ENE-FARM + SOLAR

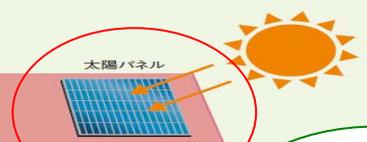
ASCLASS
環境にやさしい、CO₂削減、省エネシステム

W発電にするといろいろおトク!!

快適性
 自分の家で
 “電気とお湯をつくる”
 から家中いつも快適

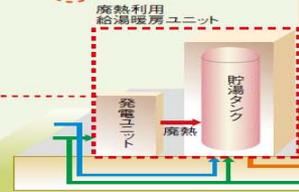
環境性
 一次エネルギー
 消費量約 33%削減、
 CO₂ 排出量
 約 45% 削減

省エネ
 大切なエネルギーを
 ロスなく使い、
 無駄なく発電



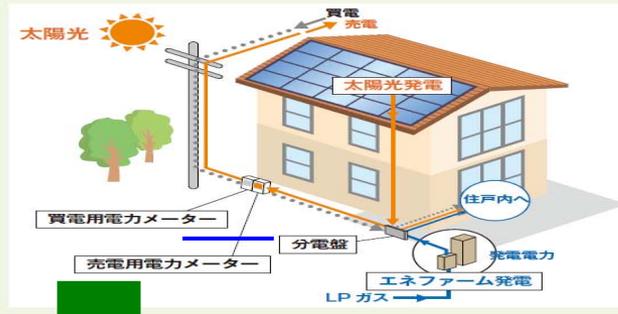
**有効利用
 余った電気を
 を蓄電**

天と地の恵みを生かした W発電
 エネルギーを効率よく使う住宅へ...



W 発電
 エネファームなら
 太陽光発電との
 W 発電も対応可能

経済的
 光熱費を節約する
 だけでなく、
 発電した電気を
 売ることでもできるの
 とっても経済的。

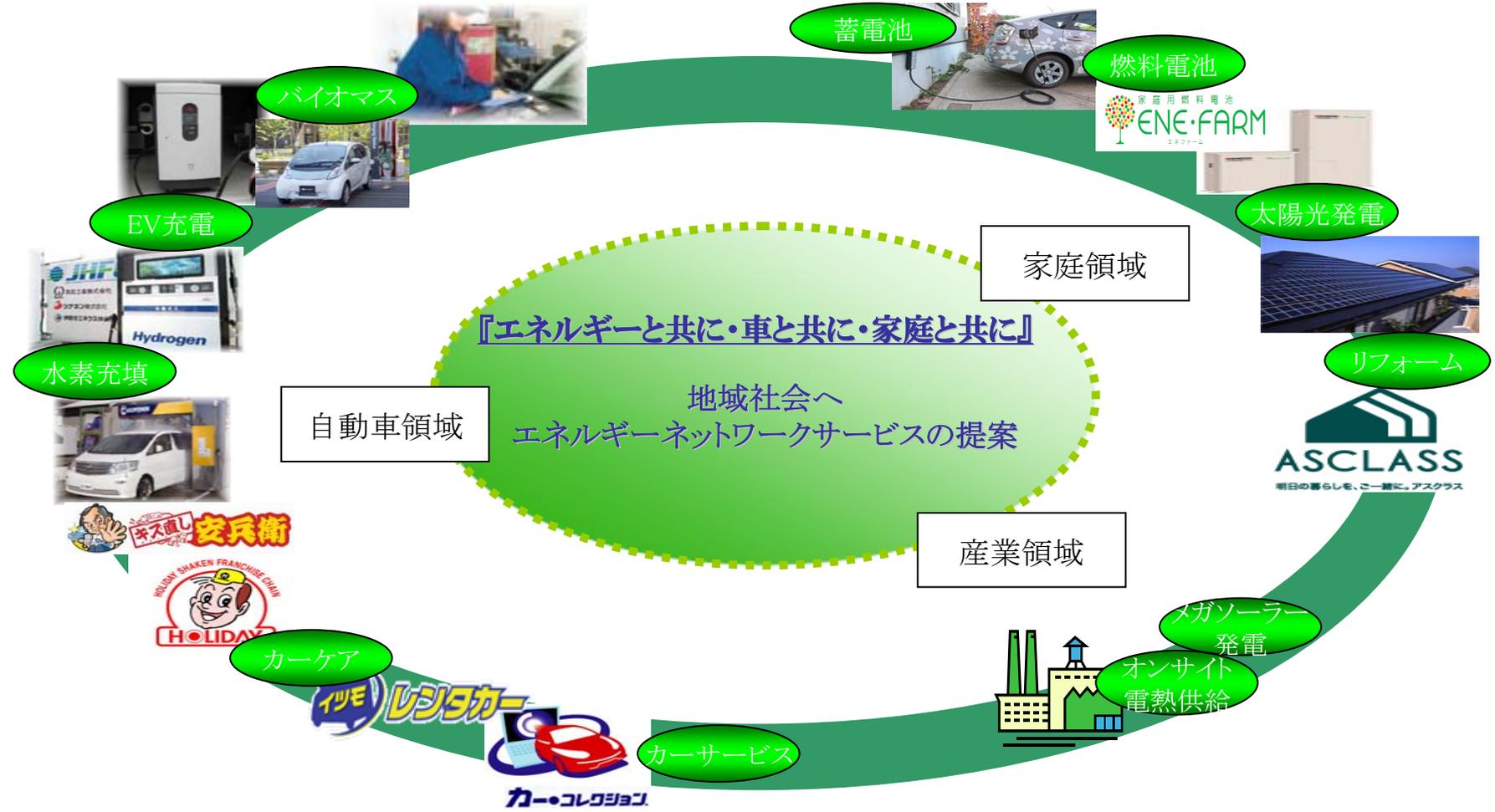


●売電と買電の流れ
 エネファームや太陽光発電
 で発電した電気を優先的に
 使用、電気使用量が発電量
 を超えると買電がスタート。
 電気が余った場合は売
 電することができます。

発電 + 給湯 + 蓄電 (創エネ + 蓄エネ) によるEcoエネルギーシステム

低炭素社会への取組み：エネルギーネットワークサービス

幅広いニーズに応える「地域生活者拠点」へ



(1)ご注意

●資料の内容につきましては細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤りおよび当資料に掲載された情報に基づいて被ったいかなる損害についても、当社及び情報提供者は一切責任を負いかねます。

●また、当資料に記載されている当社の現在の計画、戦略などは、当社が現時点で入手可能な情報を基礎として作成した見通しであり、これらの将来予測には、リスクや不確定な要因を含んでおります。そのため、実際の業績につきましては、記載の見通しと大きく異なる結果となることがあり得ます。従って、当社として、その確実性を保証するものではありませんのでご了承ください。

(2)問い合わせ先

伊藤忠エネクス株式会社 IR広報室

【TEL】03-6327-8003 【FAX】03-5418-2204

【E-MAIL】enex_irpr@itcenex.com